

(オプトアウト)

米沢市立病院で診療を受けられた皆様へ

当院では、下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の間合せ先にお問合せください。

研究課題名	小児におけるインフルエンザ菌全身感染症および百日咳の山形県実態調査
該当者	2014年1月から2018年12月末まで入院加療を要したインフルエンザ菌全身感染症と百日咳患者
当院の研究責任者	小児科部長 本間信夫
研究代表者	山形市立済生館副館長 清水行敏
本研究の目的	<p>①インフルエンザ菌全身感染症の実態調査について</p> <p>インフルエンザ菌は肺炎球菌とともに小児の細菌感染症の原因として主要な細菌である。本菌は髄膜炎や敗血症を伴う肺炎、蜂窩織炎、喉頭蓋炎など全身性の侵襲インフルエンザ菌感染症（Invasive Haemophilus influenzae disease: IHD）を起こすことがある。山形県小児科医会では研究調査課題として過去の2回、本症に対する山形県実態調査を行ってきた。前回は2009年から2013年までの調査を行い、山形県小児科医会誌に報告している。今回は2014年からの5年間調査になる。インフルエンザ菌に対するワクチン（ヒブワクチン）が2014年に定期予防接種に組み込まれており、今回の実態調査でIHDがどの程度減少したかが検証できると思われる。小児用肺炎球菌ワクチンとともに、ヒブワクチンの有用性が示されれば予防医療の意義を広く示すことができる。</p> <p>②百日咳の実態調査</p> <p>百日咳は近年、増加傾向にあるとされ、2018年1月に5 墨感染症の全身把握に指定された。その結果成人の百日咳が全体の3割を占めており、潜在的に多数の患者がいると推定されている。現在の予防接種法による接種回数では不十分であり、今後も罹患患者が増えていると考えられている。百日咳の感染症は麻疹と同等と考えられており、もしワクチン未接種の新生児や乳児が罹患した場合は重症化のリスクが高い。肺炎、肺高血圧などの合併症を起こし、地誌的になることもある。このような事態を防ぐためには地域全体で衰弱した免疫力を増加させる必要があり、小児科医会でも追加接種のプランを提示している。以上のような背景から山形県における百日咳の実態調査を行うこととした。地域における患者数は全数届け出で把握できるので、入院を</p>

	要した患者を対象として調査を計画した。今後の予防接種の見直しの基礎資料となる。
実施予定期間	令和2年6月30日まで
研究の方法	山形県内の小児科入院病床を有する医療機関にインフルエンザ全身感染症及び百日咳の治療経験の有無の聞き取り調査を行い、該当する医療機関に対して調査を行う（山形市立病院済生館および共同研究者） 情報の収集方法としては調査項目をカルテから収集を行う。
研究に用いる試料・情報の種類	調査項目は患者さんの性別・居住地（市町村まで）・生年月日・基礎疾患の有無・症状出現の日時・一般的な血液検査・入院日・退院日・使用抗生剤・天気・合併症など。インフルエンザ菌全身性感染症で入院された方はヒブワクチン接種歴とインフルエンザ菌の薬剤感受性を追加で調査します。百日咳患者さんの場合は追加調査項目として4種混合（3種混合）ワクチン接種歴と百日咳の診断検査項目（PT-IgG、LAMP法など）を加えて調査する。
外部への試料・情報の提供・公表	山形県小児科医会総会で発表され、同会雑誌に掲載する。
個人情報の取扱い	収集されるデータはすべて匿名化されており個人の情報は含まない。収集されたデータは主任研究者の責任の下に、物理的に隔離されたデータとして管理する
利益相反	開示すべき利益相反はない
お問合せ先	米沢市立病院 小児科 〒992-8502 山形県米沢市相生町6番36号 連絡先 0238-22-2450 担当者：小児科部長 本間信夫